

## 国語科 中学校第2学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例◆課題
4	読む [詩 (巻頭詩)] 木とともに 人とともに ◎詩に込められた心情を捉え、読み方を工夫して音読する。	C(1)ア	1		・詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。	○詩に描かれた情景や心情を捉え、どんな言葉にどんな気持ちを込めて読んだら良いかを考えて声に出して読む。	・詩の意味や効果的な表現を捉え、読み方を工夫して音読する。	
	1 読む [言語感覚] 伝えたいと思うから ◎心情を表すさまざまな言葉に注意して、筆者の主張を捉える。	C(1)ア	2		・話し方について知り、声に出して文章を読む。	○中1までの語句の意味を正確に捉え理解する学習を踏まえ、中2以降は多様な語句の意味や用法 (抽象的な概念や心情を表す語句) について、論の展開を追いながら理解させていく。	・対比された言葉に注意して、筆者の主張を捉える。	
	短歌を楽しむ ◎情景や心情を表す語句に注意して、短歌を読み味わう。 ◎短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。	C(1)ア C(1)ウ	2		・言葉の意味を的確に捉え、詩を音読して読み味わう。 ・詩を鑑賞し、自分のものの見方を広げる。	○中1までの語句の意味を正確に捉え理解する学習を踏まえ、中2以降は多様な語句の意味や用法 (抽象的な概念や心情を表す語句) について、論の展開を追いながら理解させていく。 ○様々な叙述に関わる表現の仕方について考えさせる。また、中1では構成、展開、表現の特徴に気付き自分の考えをもつとあるが、本学年ではその考えの根拠 (書き手の目的や意図、その効果ども含む) を明確にするよう指導する。	・表現の工夫に着目して、俳句を読み味わう。 ・俳句の良さを評価してまとめる。	■「短歌五首」から一首を選び、読み取ったことや創造したこと、表現の工夫など、鑑賞したことをまとめ、グループや学級で発表し合う。
	書く [詩歌創作] 短歌のリズムで表現しよう ◎自然や体験の描き方を工夫して、短歌を作る。	B(1)ウ	3		・言葉を選び、表現を工夫して、詩を仕上げる。 ・比喩や反復などの表現技法を理解する。	○効果的な記述として、小3・4の「理由や事例」、小5・6の「図表やグラフなどの活用」、中1の「明確な根拠」の学習経過を踏まえ、「説明、具体例」を加え、説得力のある描写の工夫をさせる。	・俳句を作って互いに読み合い、作品の良さを評価する。	
言葉 [日本語探検] 共通語と方言 ◎共通語と方言の役割について理解する。	伝イ(ア)	1		・音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深める。	○中1の音声の働きや仕組みについては本学年では触れない。小学校で学習した様々な形態の言葉やその役割についての知識を系統立てて理解させる。	・言葉の変化について理解する。		
5	言葉 [文法の窓] 敬語 ◎敬語の種類や使い方について理解する。	伝イ(ア)	2		・言葉の単位について理解する。	○中1の音声の働きや仕組みについては本学年では触れない。小学校で学習した様々な形態の言葉やその役割についての知識を系統立てて理解させる。特に小5・6で学習した敬語の使い方を正しく理解させる。	・熟語の構成や熟字訓について理解する。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	備考 ■実践例◆課題
5	2 読む [文学一] 字のない葉書 卒業ホームラン ◎登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているかに注意して、作品を読み味わう。 ◎登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを持つ。	C(1)イ  C(1)エ	7		・場面の様子や登場人物の思いに注意して、作品を読み味わう。 ・作品から読み取ったことをもとに想像を膨らませ、自分のものの見方を広くする。	○中1までの基本的な読解の学習を踏まえ、文章の構成や細部の表現（叙述の順序、例示の効果、描写の効果、登場人物の言動の意味）に着目して文章を解釈させる。 ○中1では他の人の意見から学んで自分の考えをまとめたが、本学年ではより具体的な自己の知識や体験に関連づけて賛否を明らかにしたり、問題点を指摘したりすることで、考えを形成させる。	・場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、作品を読み味わう。 ・場面の展開や表現の仕方に着目し、作品を評価する。
	言葉 [漢字道場] 形の似た漢字 ◎形の似た漢字に注意する。	伝ウ(㍑) 伝ウ(イ)	1		・漢和辞典の使い方について理解する。	○これまでに学習した漢字を必要に応じて繰り返して復習させながら、新出漢字を習得させる。	・四字熟語の構成について理解し、さまざまな四字熟語を知る。
	言葉 [文法の窓] 用言の活用 ◎用言の活用の種類や、活用の仕方について理解する。	伝イ(エ)	2		・文節の働きや、文節どうしの関係について理解する。	○中1で学習した単語の類別に基づき、用言の活用や付属語の働きについて理解させる。	・間違えやすい敬語に注意し、正しい敬語の使い方を理解する。
6	話す・聞く・[聞く] 聞き取って吟味しよう ◎問題意識を持って相手の話を聞き、自分の考えと比較する。	A(1)エ	3		・相手の話をしっかりと聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理する。	○中1では聞くときの着眼点を自分の考えとの共通点、相違点においたが、本学年では話の中心的部分と付加的な部分や事実と意見を聞き分ける、要点とその根拠となる事実、そのまとめ方を捉えて聞くなどして、考えを深めることに重点をおく。	・聞き取ったことをさまざまな観点から評価して、自分の考えや表現に生かす
	3 読む [構成・展開] 食の世界遺産－鯉節 ◎文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。 ◎筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。	C(1)イ  C(1)エ	4		・段落の役割や段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。 ・筆者の文章の書き方について、自分の考えを持つ。	○中1までの基本的な読解の学習を踏まえ、文章の構成や細部の表現（叙述の順序、例示の効果、描写の効果、登場人物の言動の意味）に着目して文章を解釈させる。 ○中1では他の人の意見から学んで自分の考えをまとめたが、本学年ではより具体的な自己の知識や体験に関連づけて賛否を明らかにしたり、問題点を指摘したりすることで、考えを形成させる。	・論理の展開の仕方に着目して、文章の内容を読み取る。 ・人間社会と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ。
	言葉 [日本語探検] 類義語・対義語 ◎類義語や対義語について理解する。	伝イ(イ)	1		・つなぐ言葉や指し示す言葉の働きについて理解する。	○小5・6で関心をもった語感、言葉の使い方、中1の辞書などを適切に使用した学習を発展させ、そこで磨かれた語感をもとにさらに語彙を豊かにする学習を進める。	・形が決まった言い方や慣用句について理解する。

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例◆課題
6	言葉 [漢字道場] 漢字の意味 ◎漢字の意味を理解し、漢字を使いこなす。	伝ウ(㍑) 伝ウ(イ)	1		・活字と書き文字の違い、画数、筆順について理解する。	○これまでに学習した漢字を必要に応じて繰り返し復習させながら、新出漢字を習得させる。	・送り仮名の付け方について理解する。	
7	書く [伝達] 調べて考えたことを伝えようー「言葉」のレポート ◎ふだんの生活やメディアなどで見聞きすることからテーマを決めて、調査する。 ◎調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫してレポートを書く。	B(1)ア B(1)イ	8 (+1)	「食の世界遺産ー鯉節」で学習した文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫を生かしながら、調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫してレポートを書くために必要である。	・ふだんの生活を振り返って、書くための材料を集め、伝える内容を考える。 ・材料を分類するなどして整理し、図表にまとめたり、段落の役割を考えて文章を構成したりする。	○中1では日常生活から求めている題材や取材の対象を社会生活全般に広げることが重視される。そのために様々な資料を収集し、比較検討して自分の考えをまとめさせる。 ○明確にすべき内容を小5・6の「自分の考え」から、「自分の立場や伝えたい事実や事柄」に発展させる。効果的に伝えるために、中1で学習した段落の役割に加え、より内容が明確になる構成を考えさせる。	・読み手に合わせて、記事の内容や形式を工夫して書く。 ・書いた文章を読み返し、表現を整えて紙面を仕上げる。	
	読む [読書] 小さな労働者 ◎さまざまな情報源からの情報を比べて、まとめる。	C(1)オ	3		・本の中から目的に合った文や語句を見つける。	○中1で本や文章と限定されていた情報源を、本学年では多様な方法で求めさせる。適切な情報を選択する際の基礎力を養うことで、必要に応じて主体的な読書活動ができるようにする。	・さまざまな読み広げによって、知識を広げ、考えを深める。	
8	4 古典 枕草子 ◎古文特有のリズムを味わいながら音読を楽しむ。 ◎自然や事物に対する筆者のものの見方や感じ方を捉える。	伝ア(㍑) 伝ア(イ)	2		・古典にはさまざまな作品があることを知る。 ・古典に対する興味や関心を持つ。 ・歴史的仮名遣いに注意して古文の読み方に慣れる。	○中1での古典特有のリズムを味わう学習を踏まえ、作品の内容を理解し、情景や心情の想像しながら朗読させ、古典に関する興味・関心を深めさせる。	・それぞれの和歌が詠まれた背景や作者の心情について考える。 ・鑑賞文を書くことを通して、和歌の世界に親しむ。	
	徒然草 ◎現代語訳を手がかりに手掛かりにして内容を読み取る。 ◎随筆に表れた筆者のものの見方や考え方を捉える。	伝ア(イ)	2		・現代語とは異なる仮名遣いや言葉に注意して、古文を読み味わう。 ・物語のおもしろさを知り、作品に描かれた世界と現代とのつながりを考える。	○中1で様々な種類の古典に触れた後、本学年では教材を工夫し、古典に現れているものの見方、登場人物や作者の思いなどを想像させることで、古典を学習する楽しみを味わわせる。	・優れた表現や文体の特徴に注意して作品を読み味わう。 ・作品に込められた作者の思いを詠み深める。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例◆課題
8	平家物語 古典芸能に親しもう ◎表現の特徴を生かして朗読し、読み味わう。 ◎場面や状況を読み取り、当時の武士の生き方や心情について理解を深める。 ◎さまざまな古典芸能の一節を朗読し、古文のリズムを楽しむ。	伝ア(ア) 伝ア(イ)	4			○中1での古典特有のリズムを味わう学習を踏まえ、作品の内容を理解し、情景や心情の想像しながら朗読させ、古典に関する興味・関心を深めさせる。	・現代にも通じる古人のものの見方や考え方を捉える。 ・古人の言葉をもと人間の生き方について考える。 ・さまざまな古人の言葉に触れて考えを深める。	
9	漢詩 ◎表現の特徴を捉え、繰り返し朗読して漢詩の世界を楽しむ。 ◎それぞれの漢詩に描かれている情景や作者の思いを捉える。	伝ア(ア) 伝ア(イ)	2		・漢文特有のリズムを味わい、訓読に必要な決まりを知る。 ・現代に生きる故事成語について理解を深める。	○中1での古典特有のリズムを味わう学習を踏まえ、作品の内容を理解し、情景や心情の想像しながら朗読させ、古典に関する興味・関心を深めさせる。  ○中1で様々な種類の古典に触れた後、本学年では教材を工夫し、古典に現れているものの見方、登場人物や作者の思いなどを想像させることで、古典を学習する楽しみを味わわせる。	・現代にも通じる古人のものの見方や考え方を捉える。 ・古人の言葉をもと人間の生き方について考える。 ・さまざまな古人の言葉に触れて考えを深める。	
	書写 ◎行書の特徴(点画の連続・変化)に気をつけ、字形を整えて、毛筆で書く。		10		・楷書の基本的な筆使いや筆順、字形に気をつけて毛筆で書く。 ・行書の特徴(点画の連続)に気をつけて字形を整えて毛筆で書く。	○中1で学習した楷書に加え、行書と仮名の書き方及びその特徴について指導し、技術の習得に努めさせる。	・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。	
	言葉 [日本語探検] 多義語 ◎多義語について理解する。	伝イ(イ)	1		・漢字の読みと訓読みについて理解する。	○小5・6で関心をもった語感、言葉の使い方、中1の辞書などを適切に使用した学習を発展させ、そこで磨かれた語感をもとにさらに語彙を豊かにする学習を進める。	・和語・漢語・外来語の特徴について理解する。	
	言葉 [文法の窓] 助詞 ◎助詞の種類や働きについて理解する。	伝イ(エ)	2		・単語の分類の仕方について理解する。	○中1で学習した単語の類別に基づき、用言の活用や付属語の働きについて理解させる。	・間違えやすい敬語に注意し、正しい敬語の使い方を理解する。	
	話す・聞く [話す] 説得力のある提案をしようープレゼンテーション ◎聞き手の立場や考えを想定し、説得力のある話を組み立てる。 ◎資料や機器を活用して、分かりやすく印象的に話す。	A(1)イ A(1)ウ	6		・全体と部分、事実と考えとの関係に注意して、分かりやすく話を組み立てる。 ・声の大きさや話す速さ、間の取り方などに気をつけて、聞き取りやすい話し方をする。	○中1で考慮した相手の反応に加え、反論や意見を具体的に想定しながら自分の考えをまとめさせる。また説得力を高めるために、話の中心的部分と付加的な部分に注意するなど、論理的な構成、展開となるよう指導する。	・経験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考える。 ・敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方をする。	
10	読む [詩] 落葉松 ◎詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。	C(1)ア	1		・詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。		・表現の特徴を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例◆課題
10	5 読む [吟味・判断] 恥ずかしい話 ◎抽象的な語句に注意して読む。 ◎筆者の論の進め方の工夫を捉える。 ◎筆者の考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つ。	C(1)ア C(1)ウ C(1)エ C(2)イ	4		文脈の中における語句の意味を的確にとらえる。 ・事実と筆者の考えとを読み分けて、要旨を捉える。 ・文章の内容を踏まえて、脳の働きについて考える。	○中1までの語句の意味を正確に捉え理解する学習を踏まえ、中2以降は多様な語句の意味や用法(抽象的な概念や心情を表す語句)について、論の展開を追いながら理解させていく。 ○様々な叙述に関わる表現の仕方について考えさせる。また、中1では構成、展開、表現の特徴に気付き自分の考えをもつとあるが、本学年ではその考えの根拠(書き手の目的や意図、その効果も含む)を明確にするよう指導する。 ○中1では他の人の意見から学んで自分の考えをまとめたが、本学年ではより具体的な自己の知識や体験に関連づけて賛否を明らかにしたり、問題点を指摘したりすることで、考えを形成させる。	・語句の使い方など、表現上の工夫に着目して、内容を読み取る。 ・文章を読み比べて、それぞれの文章の書き方について評価する。 ・文章を読み比べて、文章の内容について自分の考えを持つ。	
	言葉 [漢字道場] 同訓異字 ◎同訓異字を使い分ける。	伝ウ(ア) 伝ウ(イ)	1		・漢字の部首やその意味について理解する。	○これまでに学習した漢字を必要に応じて繰り返し復習させながら、新出漢字を習得させる。	・読み間違えたり書き間違えたりしやすい言葉に注意する。	
11	言葉 [文法の窓] 助動詞 ◎助動詞の種類や意味について理解する。	伝イ(エ)	2		・名詞の種類について理解する。	○中1で学習した単語の類別に基づき、用言の活用や付属語の働きについて理解させる。	・文法的な性質の異なる語の見分け方を通して、文法の復習をする。	
	書く [検証・説得] 反対意見を想定して書こう—意見文 ◎自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書く。 ◎意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりする。	B(1)イ B(1)ウ B(2)イ	7 (+1)	「恥ずかしい話」で学習した、段階を踏んで結論を導く文章構成、論の進め方の工夫をいかし、自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で、意見分を書くために必要である。	・説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して自分の意見を書く。 ・書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さや説得力などを確かめ合う。	○明確にすべき内容を小5・6の「自分の考え」から、「自分の立場や伝えたい事実や事柄」に発展させる。効果的に伝えるために、中1で学習した段落の役割に加え、より内容が明確になる構成を考えさせる。 ○効果的な記述として、小3・4の「理由や事例」、小5・6の「図表やグラフなどの活用」、中1の「明確な根拠」の学習経過を踏まえ、「説明、具体例」を加え、説得力のある描写の工夫をさせる	・批評の対象について、観察・分析したり、比較したりして、自分なりの判断を下す。 ・論理の展開を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。 ・書いた批評文を読み合って批評し、ものの見方や考え方を深める。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例◆課題
11	6 読む [文学二] 走れメロス ◎人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。 ◎場面の展開や表現の仕方について、自分の考えをまとめる。	C(1)イ C(1)ウ C(2)ア	5		・場面の展開を捉え、人物や情景を描いた表現に着目して、作品を読み深める。 ・作品の構成の工夫について、自分の考えを持つ。	○中1までの基本的な読解の学習を踏まえ、文章の構成や細部の表現(叙述の順序、例示の効果、描写の効果、登場人物の言動の意味)に着目して文章を解釈させる。 ○様々な叙述に関わる表現の仕方について考えさせる。また、中1では構成、展開、表現の特徴に気づき自分の考えをもつとあるが、本学年ではその考えの根拠(書き手の目的や意図、その効果も含む)を明確にするよう指導する。	・場面の展開と人間関係の変化を捉えて、作品を読み深める。 ・作品を読んで、社会の中で生きる人間について考え、自分の意見を持つ。	■読んだ文章についての自分の意見を持ち、読書会を開く。
12	言葉 [日本語探検] 話し言葉と書き言葉 ◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解する。	伝イ (ア) 伝イ (オ)	1		・語の多面的な意味と、文脈の働きについて理解する。		・和語・漢語・外来語の特徴について理解する。	
	言葉 [漢字道場] 同音異義語 ◎同音異義語を使い分ける。	伝イ (イ) 伝ウ (ア) 伝ウ (イ)	1		・漢字の成り立ちについて理解する。	○小5・6で関心をもった語感、言葉の使い方、中1の辞書などを適切に使用した学習を発展させ、そこで磨かれた語感をもとにさらに語彙を豊かにする学習を進める。 ○これまでに学習した漢字を必要に応じて繰り返し復習させながら、新出漢字を習得させる。	・いろいろな漢字を知り、言語生活を豊かにする。	
	書く [通信・手紙] 依頼状やお礼状を書こう ◎書いた文章を読み返し、語句や文の使い方などに注意して推敲する。 ◎相手や目的にふさわしい文章の形式について理解する。	B(1)エ B(2)ウ 伝イ (オ)	3		・必要な情報を選び出し、分かりやすい構成でまとめる。	○小5・6で大まかに表現の効果を考える指導をする。本学年で表記や語句の工夫などより細かく見直す指導をする。 ○小学校で学習した比喻や反復などの表現を、その名称とともに技法として改めて理解させる。	・批評の対象について、観察・分析したり、比較したりして、自分なりの判断を下す。 ・論理の展開を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。 ・書いた批評文を読み合って批評し、ものの見方や考え方を深める。	■職場体験学習の依頼文とお礼状を書く。
	読む [読書] 神奈川沖浪裏 本で世界を広げよう (日本文化) ◎複数の本を読んで、比べながら考えをまとめ、紹介をする。	C(1)オ	3		・情報の調べ方・集め方を身につけ、必要な情報を読み取る。	○小3・4で必要な所を引用したり要約する指導をする。本学年では文章の構成や展開、表現など、形式についてもより細かく分析する指導をする。また小学校では自分の考えを友達と交流する指導をする。本学年では自分のものの見方や考え方を広げる指導をする。	・場面の展開と人間関係の変化を捉えて、作品を読み深める。 ・作品を読んで、社会の中で生きる人間について考え、自分の意見を持つ。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例◆課題
1	7 読む [言葉とメディア] 情報検索で開ける世界 ◎情報を得ることについての筆者の考え方を捉え、自分の考えを持つ。 ◎書籍やインターネットを使って情報を集め、それらの情報の特徴について考える。	C(1)エ C(1)オ C(2)ウ	4		・ニュースの見方について自分の考えを持つ。 ・目的に応じて情報を選択して用いる。	○中1では他の人の意見から学んで自分の考えをまとめたが、本学年ではより具体的な自己の知識や体験に関連づけて賛否を明らかにしたり、問題点を指摘したりすることで、考えを形成させる。 中1で本や文章と限定されていた情報源を、本学年では多様な方法で求めさせる。適切な情報を選択する際の基礎力を養うことで、必要に応じて主体的な読書活動ができるようにする。	・文の順序や語句の使い方に注意して読む。 ・文章を読み比べ、構成や表現の違いについて考える。	
	言葉 [漢字道場] 新しい常用漢字 ◎常用漢字について理解する。	伝ウ(ア) 伝ウ(イ)	1		・常用漢字について理解する。	○これまでに学習した漢字を必要に応じて繰り返し復習させながら、新出漢字を習得させる。	・新しい常用漢字について理解する。	
	言葉 [文法の窓] 曖昧な文・分かりづらい文 ◎曖昧な文や分かりづらい文になる原因を理解し、分かりやすい文の書き方を知る。	伝イ(ウ)	2		・連体詞・副詞・接続詞の種類や働きについて理解する。	○小1・2の「文の中における主語と述語との関係」についての学習、小3・4の「修飾と被修飾との関係」や「文の構成」についての基礎的な学習、小5・6における「文や文章の構成」についての学習を踏まえ、文の成分、順序、照応、構成について系統的な学習としてまとめる。	・文法的な性質の異なる語の見分け方を通して、文法の復習をする。	
	話す・聞く [話し合う] 話し合いで考えを広げようーパネルディスカッション ◎さまざまな情報手段を使って討論のテーマを決め、自分たちの提案をまとめる。 ◎司会者やパネリストの役割を押さえ、目的に沿って話し合う。	A(1)ア A(1)オ A(2)イ	6		・お互いの体験や考えを出し合って整理する。 ・相手の発言をしっかりと聞き、話の方向を捉えて自分の考えを話す。	○中1では日常生活から求めている話題を社会生活に広めて豊かな話題を設定する。また人との交流ばかりではなく様々な情報手段を活用して情報を収集する能力を身に付けさせる。 ○中1では相手の発言に注意して聞くことにとどまっていたが、本学年では相手の立場や考えを尊重する態度を身に付けさせる。互いの意見の検討の中で自己の考えの深化を図るよう指導する。	・話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫する。 ・問題の解決に向けて、お互いの考えを生かし合う。	
	書く [感性・創造] いきいきと描き出そうー俳句から始まる物語 ◎風景や心情などをいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作る。	B(1)ウ B(1)オ B(2)ア	9 (+1)		・作品の良さを伝えるという目的に沿って、鑑賞文を書くための材料を整理し、文章を構成する。 ・鑑賞文やキャッチコピーが的確で印象深いものになるよう、表現を磨く。	○効果的な記述として、小3・4の「理由や事例」、小5・6の「図表やグラフなどの活用」、中1の「明確な根拠」の学習経過を踏まえ、「説明、具体例」を加え、説得力のある描写の工夫をさせる。 交流のポイントを、中1で学習したことに加え、文章の構成や材料の活用などに重点を置き、交流による助言や意見を自分の表現や考えの深化に役立てていく姿勢を養う。	・中学校生活を振り返ったり、将来を展望したりして、思いを手紙にまとめる。 ・下書きした手紙を読み返し、文章を整えて清書する。	

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例◆課題
3	読む [詩] わたしが一番きれいだったとき ◎心情が読み取れる言葉に注意して詩を読む。 ◎詩に表れているものの見方や考え方について、自分の感想を持つ。	C(1)ア C(1)エ C(2)ア	2		・詩の中で使われている言葉の意味を的確に捉える。 ・詩に表れているものの見方を捉え、自分の考えを広くする。	○中1までの語句の意味を正確に捉え理解する学習を踏まえ、中2以降は多様な語句の意味や用法(抽象的な概念や心情を表す語句)について、論の展開を追いながら理解させていく。 ○中1では他の人の意見から学んで自分の考えをまとめたが、本学年ではより具体的な自己の知識や体験に関連づけて賛否を明らかにしたり、問題点を指摘したりすることで、考えを形成させる。	・効果的な言葉の使い方に注意して詩を読む。 ・詩に描かれた人物の関係について考え、感想を持つ。	■情景や心情を自分の体験などと関連させて200字程度の鑑賞文を書く。
	読む [読書] 坊っちゃん 日本の名作を読もう ◎文学作品を読み、登場人物の考え方や人柄などについて考える。	C(1)エ	4		・文学作品を読み、情景描写などの表現の効果について考える。	○中1では他の人の意見から学んで自分の考えをまとめたが、本学年ではより具体的な自己の知識や体験に関連づけて賛否を明らかにしたり、問題点を指摘したりすることで、考えを形成させる。	・文学作品を読み、人間や社会について考える。 ・先人の生き方の根底にあった思いを受けとめる。	
	合計		140					